

アート & カルチャーでねりまをもっと楽しく

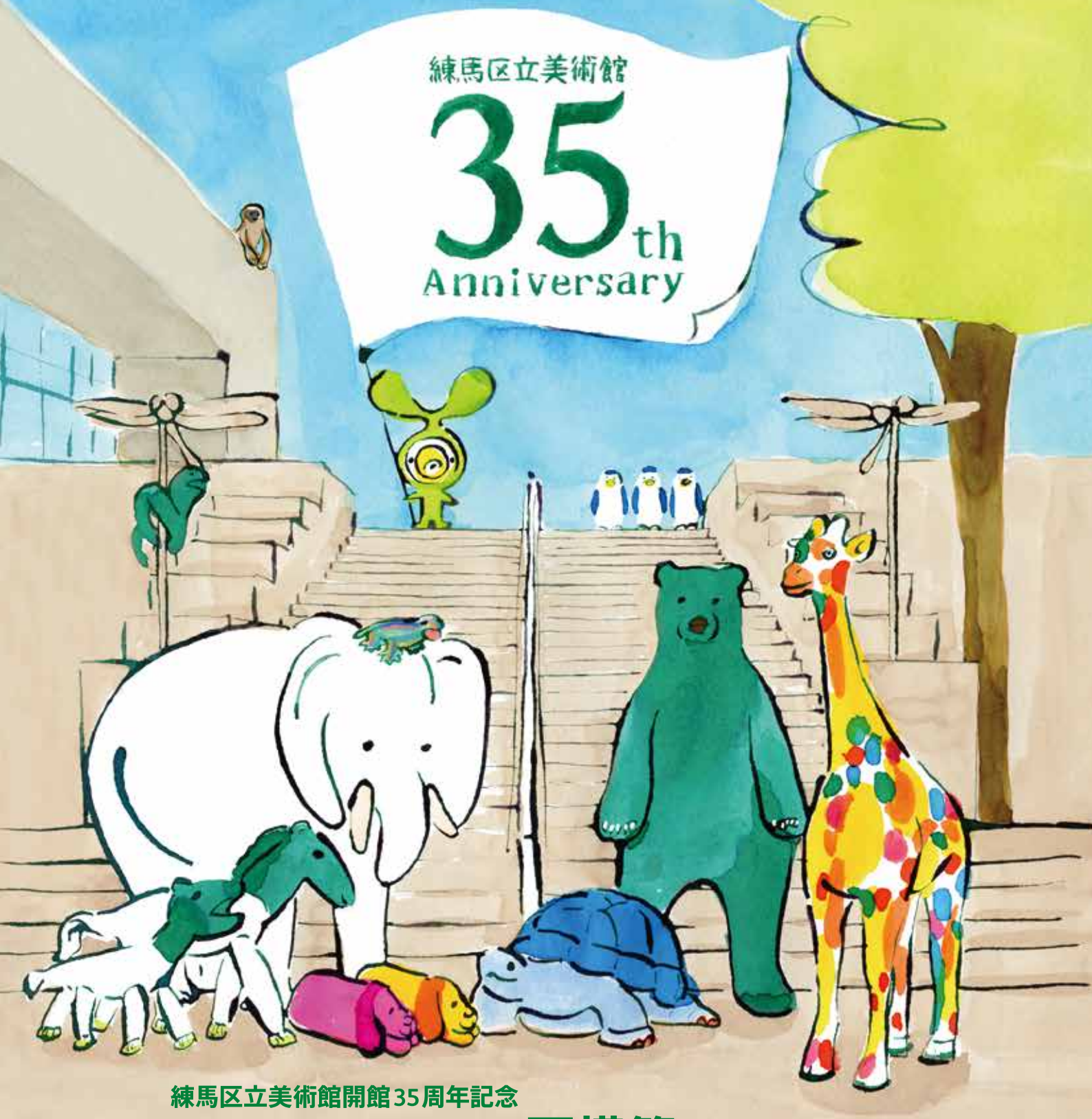
# NERICUL

(公財)練馬区文化振興協会情報誌 [ねりかる] vol.18

2020 Summer

練馬区立美術館

35<sup>th</sup>  
Anniversary



練馬区立美術館開館35周年記念

特集

Re construction 再構築

# Re construction 再構築

練馬区立美術館は今年開館35周年を迎えます。これを記念し、練馬区立美術館の所蔵品を起点とする現代作家4名の展覧会「Re construction 再構築」を7月から開催します。本展は、美術館での鑑賞という体験を、いくつかの角度から再構築していく試みでもあります。ここでは起点となる所蔵品とともに、展覧会を構成するKeywordに沿って、本展に参加する現代作家4名をご紹介します。

## Keyword 01 [色]

起点となる主な所蔵品



松岡映丘《さつきまつ浜村》1928年 絹本着色・六曲一隻

まつおかえいきゅう

松岡映丘（1881～1938、兵庫生まれ）は、明治末から昭和戦前期にかけて、やまと絵の再興と継承に力を注いだ画家でした。当館では2011年に「生誕130年松岡映丘展」が開催され、この展覧会を機に作品が収蔵されました。

美術作品の鑑賞には視覚の占める割合が高く、形はもとより色がその鑑賞要素として大きく関わってきます。特定の色からは様々なイメージが生まれ、作品の意味合いを大きく左右します。

抽象的な色面を構成する画家・流麻二果の「色の跡」と題するシリーズに因み、松岡静野の《舞妓》を再構築し、用いられた色からその作品を探っていきます。また絵画においては、絵具の選択が表現の幅に影響を与えることが多々あります。岩絵の具を用いた松岡映丘《さつきまつ浜村》と、同サイズの流の油彩作品を並べて展示することで、共通する水辺のテーマとともに、画材による色の変化を体感します。

### 所蔵品を再構築して作品を制作する作家



© Ken Kato

#### 流麻二果

ながれまにか：1975年生まれ。女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻卒。2002年文化庁新進芸術家在外研修員（アメリカ）。パブリックアート、ファッションブランドとのコラボレーションや、ダンスパフォーマンスの美術・衣装、建築空間の色彩監修など幅広く活動。



流麻二果《人肌 / Skin Warmth》2017年 油彩・キャンバス 個人蔵  
Photo: Ken Kato ©Manika Nagare, Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery

## Keyword 02 [メディア]

起点となる主な所蔵品



郭徳俊《クリントンIIと郭》1997年 シルクスクリーン・紙

クワク・ドクケージン

郭徳俊（1937年京都生まれ）は、絵画をはじめ、メールイベント、パフォーマンス映像など、多彩な表現を発表してきました。自身の顔と雑誌の表紙を飾るポートレートを重ね合わせる「大統領と郭」は、1974年から続くシリーズです。

一般的に美術の枠組みを定義するものとして、絵画や彫刻と呼ばれるメディア（情報の伝達や記録、保管などに用いられる装置）があります。しかし今日、絵画・彫刻以外を表現手段とする例も多く、ある特定のメディアを用いることは、作品に投影されるイメージをより際立たせる効果を生み出します。ミシンを使った刺繍作品を展開する青山悟は、機械と人との関わりや労働の在り方など、ミシンに纏わる様々な問題を浮かび上がらせませす。雑誌や写真というメディアに写る記号をふと逸らしユーモアをたたえる郭徳俊の作品とともに、コロナ禍の中、青山が立ち上げたプロジェクト「Everyday Art Market」を中心とした作品群を紹介します。

### 所蔵品を再構築して作品を制作する作家



#### 青山悟

あおやま さとる：1973年東京生まれ。ロンドン・ゴールドスミスカレッジのテキスタイル学科を1998年に卒業、2001年にシカゴ美術館附属美術大学で美術学修士号を取得し、現在は東京を拠点に活動。工業用ミシンを用い作品を制作している。



【参考画像】青山悟《News From Nowhere (Self Portrait)》2017年 ビンテージプリントに刺繍、ドローイング、金箔 個人蔵  
Photo: MIYAJIMA Kei ©AOYAMA Satoru, Courtesy of Mizuma Art Gallery



## Keyword 00 [歴史]

美術館での展覧会には、美術の歴史に則ったものが多くみられます。○○時代、○○様式といったカテゴリー分けはもちろん、特定の作品、作家がなぜ大切にされ展覧会の一部として公開されているのか、それぞれに歴史的な背景があります。また、現代の作家においても、これから作られる何らかの文脈における立ち位置を図る試みとして、展覧会が形作られることが多いのです。まずは練馬区立美術館の所蔵品の中から、

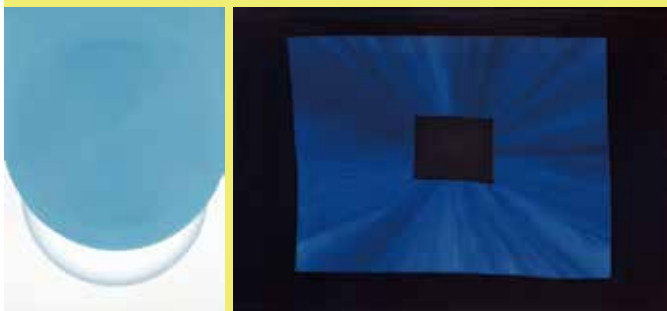
木村荘八《静物》や豊光《花と蝶》などをとりあげ、「歴史」の視点で展示・解説します。木村荘八(1893～1958、東京生まれ)は、白馬会菱橋洋画研究所に学び、岸田劉生や高村光太郎らとの交流でも知られる洋画家です。永井荷風『墨東奇譚』などの挿絵画家としても名を残しました。当館では1993年に「生誕100年木村荘八展」を開催しています。



木村荘八《静物》1919年 油彩・キャンバス

## Keyword 03 [空間]

### 起点となる主な所蔵品



小野木学《風景》1963-64年 油彩・キャンバス/小野木学《風景》1968年 油彩・キャンバス

小野木学(1924～1976、東京生まれ)は練馬区に居住していた画家です。絵画制作と並行し、絵本などの挿絵画家としても多くの仕事を残しました。当館では1986年の「没後10年小野木学展」開催以降、版画、挿絵など様々な側面から何度か展覧会が開かれています。

現在私たちは、どこにいても様々なイメージを並列に共有することができます。しかし実際の展示空間の中では、その人の身長や歩く速度、体の癖、他人との距離が見え方に影響するのはもちろんのこと、部屋の形、展示物の大きさや配置によって動きが誘導される場合も多く、個人の性質と空間との掛け合いで焦点が定まります。抽象的な油彩画「風景」シリーズを中心に、小野木学の多くの作品を一部屋で見せると同時に、富井大裕の既製品を構成した彫刻作品を点在させることで、両者の〈風景〉が混ざり合い、鑑賞者ごとにそれぞれの焦点が発見されていく空間となります。

### 所蔵品を再構築して作品を制作する作家



#### 富井大裕

とみい もとひろ：美術家。1973年新潟県生まれ。2015-2016年文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてニューヨーク(アメリカ)に滞在。現在東京在住。既製品に最小限の手を加えることで、それらを固定された意味から解放し、色や形をそなえた造形要素として、「彫刻」のあらたな可能性を模索する。



富井大裕《board paper board (half origami)》2019年 アクリル板、半分にカットされた折り紙  
Photo: Masaru Yanagiba ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## Keyword 04 [身体]

### 起点となる主な所蔵品



池上秀敏《桜花雙鳴・秋草群鴉図》1921年 絹本金地着色・二曲一双

池上秀敏(1874～1944、長野生まれ)は、祖父・父ともに絵を嗜む家庭に育ち、荒木寛敏の弟子として研鑽を積んだ日本画家です。当館では1988年に「山水花鳥の美 池上秀敏展」が開催され、兄弟子・荒木十敏の作品とともに数点が収蔵されています。

身体は、細胞一つ一つの集合体と、周囲の環境との関係によって成り立ちます。両者の関係性は時代や地域により異なり、また今年に入り大きな変化を感じた方も多いのではないのでしょうか。他者(生物はもちろん全ての存在)の視野を内在化し、物語ることを追求する大小島真木のインスタレーションに、荒木十敏、池上秀敏による昭和初期の花鳥画を配し、変容し続ける身体の宇宙を問いかけます。また、美術鑑賞は他の様々な活動同様、身体全てを使った経験です。今回の展覧会で例えれば、歴史概念であり、視覚であり、社会との接点であり、空間を処理する能力。様々な感覚に知識や経験が掛け合わされ、個々の鑑賞が生まれる場所をお楽しみください。

### 所蔵品を再構築して作品を制作する作家



#### 大小島真木

おおこじま まき：1987年東京生まれ。日本各地を初め、インド、メキシコ、ポーランド、中国、フランス、海洋調査船タラ号での海上などで滞在制作。鳥や森、菌、鉱物、猿など異なるものたちの環世界を自身に内在化し、物語る装置としての作品制作を行う。



大小島真木《Entanglement hearts series》2020年 アクリル、鉛筆、油性色鉛筆・アルシュ紙 作家蔵



練馬区文化振興協会では、観る・聴く・学ぶ・参加するなど、様々なイベントを開催しています。その魅力をレポートします。

鑑賞プログラム

# トコトコ美術館

《練馬区立美術館》

開催：年3～4回（各回同じ内容を4回ずつ開催）、  
 土日、10:30～12:00 / 14:00～15:30  
 担当：真子みほ（練馬区立美術館学芸員）  
 対象：3～6歳の未就学児+保護者・各回5組  
 参加費：無料 ※当日の展覧会観覧券が必要  
 会場：練馬区立美術館展示室、創作室

## 子どもたちが“普段の美術館”を楽しむための「はじめての美術館」

今回のイベントレポートは、特別編でお送りします。今年開館35周年を迎える練馬区立美術館の教育普及事業の中から、10年以上の歴史を持ち、館を代表するプログラムに成長した「トコトコ美術館」を取り上げます。

練馬区立美術館では、2009年から未就学児保護者の方を対象とした鑑賞プログラム「トコトコ美術館」を開催しています。毎回展覧会にあわせてテーマを設定し、作品鑑賞、絵本の読み聞かせ、工作を行っています。参加するには事前に申込が必要で、近年では定員以上の応募がある人気プログラムです。2009年の初回から学芸員の真子みほが担当しています。

“走らない”、“静かにする”、“作品にさわらない”…、こういった美術館の約束は、子どもたちの行動の正反対の行動かもしれません。美術館の中には、子どもたちに自由に楽しんでもらいたいということで、休館日に子ども向けプログラムを実施している館もあります。しかし、練馬区立美術館のプログラムはちょっと違います。小学生から中学生、高校生、そして大人になっても美術館を楽しんでもらいたい、美術館という場所に親んでもらいたいという狙いのもと、美術館の約束を伝えて、いつもの美術館の雰囲気を親んでもらう内容になっています。

それでは「トコトコ美術館」がどんなものか、2019年度に開催した「没後10年 品川工展 組み合わせのフォーラム」の関連イベントとして行った「vol.29 テーマ：はなが」をもとに紹介します。

### トコトコ美術館の流れ

- ① 受付・あいさつと美術館の約束についてお話
- ② 展示室で展覧会鑑賞（各自で探し物ゲーム）
- ③ 探し物の発表と展示作品の解説
- ④ 絵本の読み聞かせ
- ⑤ 創作室で工作
- ⑥ 作品の発表と参加証授与

「トコトコ美術館」をやり始めてから10年が経ち、今年度はこれまでの「トコトコ美術館」の活動をまとめた記念記録誌を作成するそうです。

10年の間には参加者が小学生になって他の事業に来てくれたり、今度は弟や妹が参加したりと何年もお付き合いが続くご家族も出てきました。またこの事業を続けてきたことで、紹介の仕方次第でどのような展覧会でも子どもに伝えることができるという自信がつかしました。これからも、美術館を楽しんでくれる子どもたちが増えることを願っています。（真子）



### ① 受付・あいさつと美術館の約束についてお話

美術館ロビーにて受付、好きな色の色鉛筆で名札をつくります。みんな集まったら、展覧会やテーマ、内容についてお話し、美術館の約束を伝えます。



### ② 展示室で展覧会鑑賞（各自で探し物ゲーム）

展示室に入って展覧会を鑑賞します。ただ自由に見るのではなく、キーワードを設定し、そのキーワードのものを探しながら、作品を観察します。今回は、「紙をクシャクシャにした版画」を探しました。



### ③ 探し物の発表と展示作品の解説

一人ずつ見つけたものを発表します。簡単な作品の解説を担当がお話し、作品について学んでいきます。



### ④ 絵本の読み聞かせ

展覧会鑑賞の興奮を冷ますため、展示作品に関連した絵本の読み聞かせを行います。この時は、木版画を使用した絵本でした。



### ⑤ 創作室で工作

創作室に移動して、工作を行います。今回は、テーマが「はなが」なので、実際に版画を体験し、作品をつくりました。



### ⑥ 作品の発表と参加証授与

出来上がった作品を持って、展示室に行きます。つくった作品を展示室の作品の前に並べて見比べながら、今日のプログラムの振り返りを行います。最後に、参加証（メダル）を渡します。



## 練馬区立美術館開館35周年記念展 Re construction 再構築

練馬区立美術館開館35周年を記念する展覧会第1弾。

ながれま に か あおやまさとる とみ い もとひろ おお こ しま ま き

流麻二果、青山悟、富井大裕、大小島真木の4名の参加作家に当館所蔵品を再構築した作品制作を依頼します。目に見えるモチーフに関して、所蔵品から紹介する章に始まり、画材の選択や個々人の視覚・色覚に左右される「色」のセクションを流、イメージを投影する「メディア」を青山、展示室という「空間」について富井、そしてそれらを受け取る「身体」を大小島が担当し、これらを辿りながら美術館における鑑賞全体の再構築へとつなげていきます。プレ展示(7月8日～8月2日)では、公開制作や参加型展示などを行い、本展示(8月9日～9月27日)にて各作家と所蔵品を組み合わせた展示空間を展開させます。

ココがおすすめ!

美術館の所蔵品と現代作家の組み合わせを楽しんでください。

### プレ展示 7月8日(水)～8月2日(日)

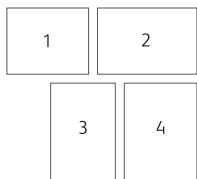
**時間** 10:00～18:00 **公開制作** 富井大裕、大小島真木の2名の作家が会期中、展示室にて作品の公開制作を行います。作家滞在日については、美術館のホームページ、ツイッターでお知らせします。  
**休館日** 月曜日  
**観覧料** 無料 **参加型展示** 流麻二果の作品に関連して、会期中、展示室にて色にまつわるアンケート型展示を行います。アンケートは8月の本展示に反映されます。なお、作家は滞在しません。  
 (会場は2階展示室のみ)



Web上でもアンケートに参加できます

### 本展示 8月9日(日)～9月27日(日)

**時間** 10:00～18:00 **休館日** 月曜日 ※ただし、8月10日(月・祝)・9月21日(月・祝)・22日(火・祝)は開館、8月11日(火)・9月23日(水)は休館。  
**観覧料** 一般800円、高校・大学生および65～74歳600円、中学生以下および75歳以上無料、その他各種割引あり (一般以外の方は年齢等の確認できるものをお持ちください。)  
 展覧会の関連イベントは、美術館のホームページ等をご覧ください。



1  
 流麻二果《借景絵／The Surrounding Scenery》2016年  
 油彩・キャンバス  
 個人蔵  
 photo: Ken Kato  
 ©Manika Nagare, Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery

2  
 [参考画像]  
 青山悟《SOCIAL DISTANCE MEASURE》2020年  
 メジャー、布に刺繍  
 個人蔵  
 ©AOYAMA Satoru, Courtesy of Mizuma Art Gallery

3  
 富井大裕《board paper board (Classico) #1》2019年  
 アクリル板、トレーシングペーパー (クラシコトレーシングペーパー -FS)  
 photo: Masaru Yanagiba  
 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

4  
 [参考画像]  
 大小島真木《Human\_becoming- 熊人間》2019年  
 鉛筆、アクリル・アルシュ紙 作家蔵



練馬区立美術館にご来館予定のみなさまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止の対策にご協力をお願いします。



マスク



手洗い



咳エチケット



十分な間隔



体調不良



入場制限

- マスクなど口を覆うものをご着用ください。
- 咳エチケット、手洗いなどにご協力ください。
- 展示室内では、隣の方と十分に間隔をとってご鑑賞ください。
- 体調に不安のある方は、来館をご遠慮ください。
- 入場制限等を実施する場合がございます。

開館状況、展覧会・イベント開催等、施設の最新情報につきましては、美術館のホームページをご確認ください。

7月	[延期] 7月4日(土) 14:00～16:00 → 9月4日(金) ①14:30～16:30 ②18:30～20:30	練馬文化センター大ホール
	東京ニューシティ管弦楽団 定期演奏会	S席 5,000円 A席 4,000円ほか
	[延期] 7月5日(日) 14:00～15:50 → 12月23日(水) 17:00～18:50	大泉学園ゆめりあホール
	山崎バニラの活弁ゆめ絵巻2020 ～スポーツ・サイレント・コメディ	全席指定 一般 2,000円 子ども 1,000円 (3歳以下入場不可)
[延期] 7月11日(土) 19:00～20:30 → 10月17日(土) 19:00～20:30		
[延期] 7月12日(日) 15:00～16:30 → 10月18日(日) 15:00～16:30	練馬文化センター小ホール	
イッセー尾形の妄ソー劇場 文豪シリーズその3	完売御礼	
7月18日(土) 14:00～15:00	大泉学園ゆめりあホール	
第63回ワンコインコンサート		
ソプラノとピアノで聴くフランス音楽の世界 ※「0歳からのソプラノとピアノの夏の歌」は中止となりました。 全席指定 500円		
8月	8月3日(月) 19:00～21:00	練馬文化センター小ホール
	万作・萬斎狂言の会 ～孫聲・六地蔵～ [4/8延期公演]	完売御礼
8月22日(土) 16:00～17:30	大泉学園ゆめりあホール	
第15回ゆめりあ若手寄席 ～真夏の夕涼み会2020	全席指定 1,500円	
9月	9月11日(金) 19:00～20:30	大泉学園ゆめりあホール
	練馬区演奏家協会コンサート ベートーヴェンからのメッセージ	全席指定 1,000円
9月12日(土) 15:00～17:15	大泉学園ゆめりあホール	
ゆめりあJAZZ vol.28 日本ボーカル界最高峰 西村協+マリア・エヴァ	全席指定 2,500円	
～ジャズ・ボーカルの偉大な先達に捧げる～		

その他会場

7月	7月11日(土) 11:15～12:00	関区民ホール(練馬区関町北1-7-2 関区民センター内)	
	まちなかコンサート Vol.39 in 関区民ホール	無料	定員90名 ※要事前申込 (往復ハガキまたはEメールで/7月4日(土)締切) 問合せ: 03-3993-3311

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演が中止または延期となる場合がございます。各公演の最新情報、ご来館にあたっての注意事項等につきましては、施設のホームページをご確認ください。掲載情報は、2020(令和2)年6月12日現在のものとなります。

チケット購入方法

【電話】03-3948-9000

10:00～17:00 / 練馬文化センター予約電話  
※チケットは、窓口や郵便振替でお引換えができます。

- 練馬文化センター1階チケットカウンター
- 大泉学園ゆめりあホール5階事務室受付

10:00～20:00 / ※予約受付開始日の翌日10:00から、窓口で購入およびお引換えができます。

特に記載のない公演については、未就学児入場不可。  
車いす席、難聴者イヤホンをご希望の方は、予約電話までお申してください。

【インターネット】 <https://www.neribun.or.jp>

事前に利用登録が必要です。(無料)

- ①協会ホームページの「インターネットチケット販売」ボタンをクリック。
- ②「利用登録」から必要事項を入力してください。

●予約方法 登録したメールアドレス、パスワードで「ログイン」するとチケット予約が行えます。

※チケットは、セブン-イレブンや郵送などで受取れます。



おうちdeシネマミュージック



心に残る映画音楽をプロの音楽家が演奏します!

5月28日(木)～6月15日(月)にかけて募集しました「あなたの好きな映画音楽」の中からプロの音楽家による演奏を、YouTube 練馬区文化振興協会公式チャンネルで配信します。

また、募集時にみなさまから寄せられたおすすめコメントの一部を、練馬区文化振興協会ホームページにて紹介します。あわせてご覧ください。

動画配信 2020(令和2)年7月下旬頃

配信チャンネル YouTube 練馬区文化振興協会公式チャンネル

視聴方法

- QRコードを読み取る
- YouTubeにて「練馬区文化振興協会」で検索
- <https://www.youtube.com/user/neribun>を入力



## 企画展「75年前に戦争があった—資料が語る戦時下の暮らし—」

### 6月20日(土)～8月15日(土)

1945(昭和20)年8月15日、アジア・太平洋戦争の終結が伝えられ、15年も続いた戦争の時代が終わりました。それから75年がたとうとする現在、当時の記憶が失われつつあります。

この展覧会では、これまでに館へ寄贈された、戦時下の生活の様子が伝わる実物資料を展示し、時代を生きた人々の暮らしを振り返ります。

時 間 9:00～18:00

休館日 月曜日 ※ただし、8月10日(月・祝)は開館、8月11日(火)は休館。

観覧料 無料



陶製ゆたんぼ (代用品)



防空頭巾



学童疎開の準備 (家から駅まで荷物を運ぶ)



千人針

#### 学芸員からのメッセージ

忘れてはいけない体験を未来へ、子どもたちへ。戦後75年の節目に、改めて振り返る機会としてみませんか。

展覧会の関連イベントは、ふるさと文化館のホームページ等をご覧ください。

### 常設展示 観覧料:無料

「江戸・東京近郊の暮らし」を大きなテーマに、練馬区の歴史、民俗、伝統文化の特色を紹介しています。

ふ=ふれあい(交流)、る=ルーツを知り、さ=さわることができて(体験型展示)、と=とりかえられる(定期的に更新)をコンセプトに展示をしています。江戸以前の練馬、近郊農村文化、近郊の村からまちへ、体験コーナー、近郊のまち文化、エピソードの順で構成されています。



水車の水輪

### 石神井公園ふるさと文化館 分室

### 常設展示 観覧料:無料

檀一雄の書齋再現をはじめ、練馬区ゆかりの文化人42人の紹介等や区ゆかりの時代小説家の五味康祐の貴重なオーディオ装置等を展示しています。

今年度は、小説家の松本清張、詩人・木島始、区ゆかりの漫画家13名の1970年前後の作品や、新着資料(評論家・粟津則雄の書き下ろし原稿)を展示しています。



分室常設展示会場風景



木島始 詩画集『もぐらのうた』表紙原画 1970年頃 当館蔵

石神井公園ふるさと文化館/分室にご来館予定のみなさまへ 新型コロナウイルス感染拡大防止の対策にご協力をお願いします。



マスク



手洗い



咳エチケット



十分な間隔



体調不良



入場制限

- ・マスクなど口を覆うものをご着用ください。
- ・咳エチケット、手洗いなどにご協力ください。
- ・展示室内では、隣の方と十分に間隔をとってご鑑賞ください。
- ・体調に不安のある方は、来館をご遠慮ください。
- ・入場制限等を実施する場合がございます。

開館状況、展覧会・イベント開催等、施設の最新情報につきましては、ふるさと文化館のホームページをご確認ください。





☎ 03-5372-2572

[住所] 練馬区石神井台1-33-44  
石神井松の風文化公園管理棟内  
(西武池袋線「石神井公園」駅下車徒歩15分)

[FAX] 050-3352-2983

[開室時間] 9:00~18:00

[休室日] 月曜(祝休日の場合は翌平日)、年末年始、臨時休室日

[料金] 観覧無料



☎ 03-3993-3311

[住所] 練馬区練馬1-17-37  
(西武池袋線・西武有楽町線・  
都営大江戸線「練馬」駅下車  
徒歩1分)

[FAX] 03-3991-9666

[休館日] 年末年始  
(保守点検日は、一部施設のご利用ができません)



大泉学園  
OIZUMI GAKUEN YUMERIA HALL

☎ 03-5947-2351

[住所] 練馬区東大泉1-29-1  
(西武池袋線「大泉学園」駅  
下車徒歩1分)

[FAX] 03-5905-2021

[休館日] 年末年始  
(保守点検日は、一部施設の  
ご利用ができません)



☎ 03-3996-4060

[住所] 練馬区石神井町5-12-16  
(西武池袋線「石神井公園」駅下車徒歩15分)

[FAX] 03-3996-4061

[開館時間] 9:00~18:00 (会議室の利用は21:30まで)

[休館日] 月曜(祝休日の場合は翌平日)、  
年末年始、臨時休館日

[料金] 常設展示は観覧無料(特別展は有料)



☎ 03-3577-1821

[住所] 練馬区貫井1-36-16  
(西武池袋線「中村橋」駅  
下車徒歩3分)

[開館時間] 10:00~18:00  
(入館は17:30まで)

[休館日] 月曜(祝休日の場合は翌平日)、  
年末年始、展示替えなど  
による準備期間中

[料金] 展覧会により異なる



## 公益財団法人 練馬区文化振興協会 友の会 会員募集中!

年会費:2,500円(税込)  
会員期間:入会月から1年間

公益財団法人練馬区文化振興協会が管理運営している施設の公演や展覧会などがお得に楽しめます!

特典  
いっぱい♪

1 情報誌を毎月郵送

2 チケット10%オフ

・練馬文化センター  
・大泉学園ゆめりあホール

3 チケット優先予約

・練馬文化センター

4 展覧会にご招待

・石神井公園ふるさと文化館  
・練馬区立美術館

5 会員限定イベント

・石神井公園ふるさと文化館  
・練馬区立美術館

\*各特典には条件があります。

入会申込

窓口

郵便振込

インターネット

いずれのお手続きでも料金は2,500円です。

\*郵便振込の場合、別途振込手数料がかかります。

\*各特典や入会方法など、詳しくは  
<https://www.neribun.or.jp/> をご覧ください。

